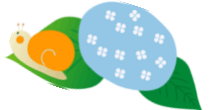




「武井たか子を支える会」
生き生き政治ネット事務所
松山市衣山2-4-47早瀬ビル2F
TEL/FAX 924-2485
e-mail ikiiki@takei-takako.jp



新緑の季節を迎えました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。

いつも「武井たか子の議会報告」を送らせていただき、ありがとうございます。今回は、現在直面する重大な問題である、安全保障関連法（戦争法）についてと、伊方原発再稼働が迫る中、東京電力福島第一原発事故から5年を迎えてもお避難生活を余儀なくされている被災者の方々の厳しい現状について記事にしたいと考え、拡大版となりました。ぜひ、ご一読ください。

さて、夏には参議院選挙を迎えますが、選挙後、安倍首相は「改憲」という名の「平和憲法の改悪」を行うことを明言しています。私たちは、何もしないでこれを見過ごすことはできません。後の時代に「なぜ戦争を止められなかったのか」と問われて後悔しないよう、「戦争法廃止」にむけて行動します。

そこで、日頃から議会報告を送らせていただいているみなさまに「戦争法廃止」を訴える福島みずほさんとながえ孝子さんをご紹介したく、リーフレットを同封させていただきます。ご理解のほど、よろしくお願ひします。

一貫して、平和憲法死守を訴えられている福島みずほさん、一度は政界から身を引くと決意されながら、平和憲法を守るため、決死の覚悟で再び選挙に挑まれるながえ孝子さん（今回は、無所属で立たれます。私たち市民の必死の願いに応えての立候補です）、共に、安倍政権の暴走をとめるために力を尽くしてくださるものと思ひます。ぜひ、資料をご覧いただき、あなたの貴重な一票の行方を決める参考にしてください。

“政治カフェ” 自民党憲法草案の問題点を読む

はじめて自民党憲法草案を読んだとき、いまさら天皇を元首とし、国防軍を持つなんてありえないと思ひていました。ところが、安倍政権は着々と実現させようと、あの手この手でやってきます。

どこがどのように問題なのかをあらためて読み解きます。ぜひ、ご参加ください。お待ちしております。

と き：6月4日（土）10：30～12：00 ところ：生き生き政治ネット事務所

※参考になる資料を持参して下さいです。

32.6%と68.3% 18歳選挙、若者の投票率を上げられるか、愛媛の教育が問われる

2014年12月にあった衆議院選挙の10歳毎年代別投票率である。32.6%が20歳代68.3%が60歳代である。人数の総数が違うから%だけでは実態がわからないが、20歳代が420万人60歳代が1,240万人が投票実数である。20歳代の総数が1,288万人であるから、投票率100%でやっと60歳代と対等に意見が言える。高校生や若者にこの現状を知らせて投票に行くよう勧めることが今一番求められている。

愛媛県の高校教育でやらねばならないことは高校生の政治活動参加を推進し若者の投票率を上げることである。政治活動を「届け出制」にすれば政治に興味・関心を持たなくなります投票率は下がる。若者の意見が政治に反映されず若者が大切にされない政治が行われる。18歳から選挙権があるのだから高校生が政治に興味・関心を持つようになる教育が求められている。

昨年度後半に『私たちが拓く日本の未来』（有権者として求められる力を身につけるために）という総務省・文部科学省共著の冊子が全国の高校生に配布された。この冊子のP27に前述のデータが掲載されている。高校教育課は各校がこの冊子を活用しているか調査する必要がある。もしあまり活用されていないのであれば学習を勧めねばならない。学校現場で学習するためには指導者の教員が政治活動について知らないといけない。そのためには教員が政治活動に参加して実態を知る必要がある。教員が実態を知らなくては生徒に教えることはできない。愛媛県の高校教育課が心配する「公職選挙法違反の未然防止」も「政治活動に巻き込まれた場合の安否確認」も教員が政治活動に参加してみないと分らない。生徒のために教員がまず政治活動に参加してみることだ。「届け出」より先にやらねばならないことがある。

元県立学校教員 安藤哲次

福島をくり返さない！－伊方原発再稼働を許さない4・23 in 松山

4月14日から発生した熊本県や大分県を震源とする地震で、活断層が動く直下型地震の被害の甚大さを目の当たりにした。地震列島のこの国では、いつでもどこでも巨大地震が襲ってくる。伊方沖を通過している活断層の中央構造線断層帯が連動して動く危険は否定できない。さらに伊方原発は南海トラフ地震の震源域の真上に立地している。

しかし、中村知事、四国電力、原子力規制委員会は、安全上の問題は無い、国の基準を満たしている、中央構造線は連動して動かないと、相変わらずの安全神話に寄りかかり、住民の不安は置き去りにされる。福島第一原発の事故から何も学ぶことなく、命より経済が優先され、九州電力川内原発は稼働を続け、伊方原発3号機の再稼働に向けた準備が着々と進められる。四国電力は7月末の再稼働を狙っている。まさに私たちの伊方原発の再稼働反対の活動は正念場を迎えている。



4月23日、城山公園やすらぎ広場で「伊方原発再稼働を許さない4・23 in 松山」が、全国各地から2800人の参加で開催された。総勢21人の「さよなら原発歌声パレード in おのみち」の歌、福島県いわき市出身の神田香織さんの講談「チェルノブイリ・福島の叫び」、原発周辺住民からの訴え、野党国会議員による連帯アピールなどのあと、参加者全員で「原発再稼働ゆるさん」と力強くプラカードアピールをした。今後も四国電力、県や各自治体への要請、議会への請願陳情、南予地域への宣伝など、粘り強く再稼働反対を訴えていきたい。（報告 奥田恭子）

◎裁判で原発をとめる！！ 次回、5月31日（火）14：40開廷、傍聴希望の方は13：30にお集まりください。

2011年12月8日に提訴し、5月31日に第17回目の口頭弁論が開かれる伊方原発運転差し止め訴訟も大詰めを迎えている。3・11以降、各地の原発裁判でいくつかの判決、決定がなされたが、裁判所の判断は分かれている。多くの市民が傍聴に参加して、「脱原発」の世論の大きさを裁判官に示すことが重要だ。どうぞ傍聴にかけつけてください。
※15時45分頃から、愛媛県美術館講堂で報告集会を開催。

◎漫画パンフ「地震が来るのに再稼働していいの？ 伊方原発必要なの？」の活用を！

イラストレーター高木章次さんと伊方原発をとめる会がカラーの漫画パンフを制作。脱原発の人だけでなく、多くの人に読んでもらいたい。一部50円（カンパこみ）周りの方に広げてください。

☆伊方原発周辺30*1圏内で各戸配布の予定。（伊方・八幡浜地域で一斉配布）☆

5月21日、22日、28日、29日参加できる方はご連絡ください。



2015年度生き生き政治ネット（武井たか子を支える会）活動報告&会計報告

収入		支出	
前年度繰越し	19,958	人件費	465,445
会費・カンパ	410,931	備品消耗品	168,924
武井会費	1,500,000	事務所費	365,521
		機関紙発行費	446,156
		調査研究費	34,269
		その他	33,102
		次年度繰越し	417,472
合計	1,930,889	合計	1,930,889

たくさんの会費とカンパをいただき、心より感謝いたします。次年度への繰り越しが多くなっていますが、女性参政70年にあたり、女性議員を増やそうというテーマで2016年度の企画に用いたいと思います。

<2016年度活動報告>

- 3月7日 第5回 政治カフェ
「地域猫」のお話し会
- 6月5日 第6回 政治カフェ
データから見る女性の貧困
- 8月8日 第7回 政治カフェ
安保法制 緊急トーク
- 11月28日 第8回 政治カフェ
教科書選定 どこが問題？

- ◎年4回、生き生き政治ネット通信を発行、毎月、メール通信で情報を発信しています。
- ◎世話人会の開催（2月、5月、7月、9月、12月）
- ◎武井たか子の議会報告の発行では、発送、ポスティングにご協力をいただき、ありがとうございます。

【事務所は、月・水・金10：00～16：00 開けています。事前にお電話で確認してください。TEL：924-2485